

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-133525

(43)Date of publication of application : 10.05.2002

(51)Int.Cl.

G07G 1/12

(21)Application number : 2000-321080

(71)Applicant : TOSHIBA TEC CORP

(22)Date of filing : 20.10.2000

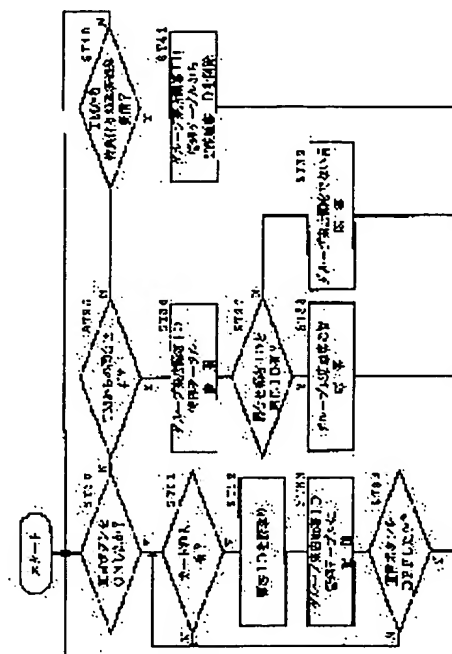
(72)Inventor : HARA EIJI

(54) SYSTEM FOR PROCESSING SALES DATA OF ARTICLE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To impart an extra coming-to-store-by-group benefit which is not imparted to an individual coming-to-store customer, as to coming-to-store-by-group customers.

SOLUTION: IDs of plural customers who pronounce that they come to a store by a group are stored in a coming-to-store-by-group customer ID control table to allow control, and the coming-to-store-by-group benefit is imparted, when an article registration with the input customer ID is carried out in the terminal, with the proviso that it is determined that the customer ID is equal to any to the customer IDs storage-controlled in the customer ID control table.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-133525

(P2002-133525A)

(43) 公開日 平成14年5月10日 (2002. 5. 10)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 7 G 1/12

識別記号

3 2 1

F I

G 0 7 G 1/12

テーマコード(参考)

3 2 1 L 3 E 0 4 2

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2000-321080 (P2000-321080)

(22) 出願日 平成12年10月20日 (2000. 10. 20)

(71) 出願人 000003562

東芝テック株式会社

東京都千代田区神田錦町1丁目1番地

(72) 発明者 原 英士

東京都中央区日本橋浜町3丁目21番1号

日本橋Fタワー 東芝テック株式会社内

(74) 代理人 100093218

弁理士 長島 悦夫 (外3名)

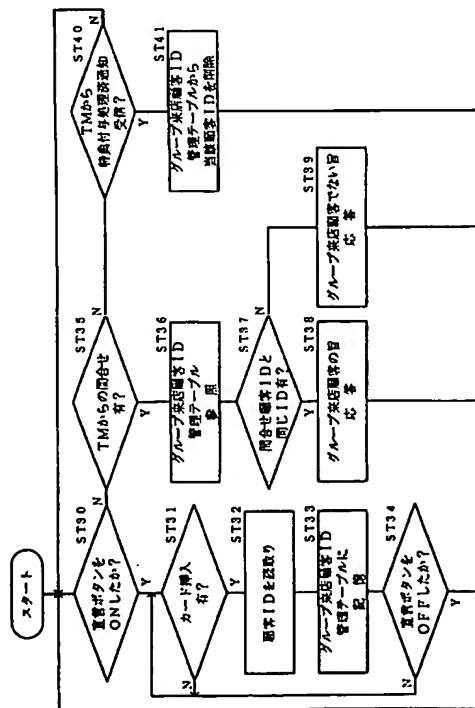
Fターム(参考) 3E042 BA18 CC01 CC02 CD04

(54) 【発明の名称】 商品販売データ処理システム

(57) 【要約】

【課題】 グループ来店顧客に関して単独来店顧客には付与しない格別のグループ来店特典を付与可能な商品販売データ処理システムを提供する。

【解決手段】 グループ来店宣言を成した複数人の顧客IDをグループ来店顧客ID管理テーブルに記憶して管理可能に形成し、ターミナルにおいて顧客IDを入力した商品登録が成された場合に当該顧客IDがグループ来店顧客ID管理テーブルで記憶管理されているいずれかの顧客IDと等しいと判別できたことを条件に当該取引に関してグループ来店特典を付与処理可能に形成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 店舗内に配設された商品登録機能を有する複数のターミナルを具備する商品販売データ処理システムにおいて、

グループ来店宣言を成した複数人の顧客 ID をグループ来店顧客 ID 管理テーブルに記憶して管理可能に形成し、前記ターミナルにおいて顧客 ID を入力した商品登録が成された場合に当該顧客 ID がグループ来店顧客 ID 管理テーブルで記憶管理されているいずれかの顧客 ID と等しいと判別できたことを条件に当該取引に関して単独来店顧客には付与しない格別のグループ来店特典を付与できるようにコンピュータ処理する商品販売データ処理システム。

【請求項 2】 前記グループ来店宣言および各顧客 ID が、いずれかのターミナルにおいて入力される請求項 1 記載の商品販売データ処理システム。

【請求項 3】 前記グループ来店宣言および各顧客 ID が、前記各ターミナルに共通のグループ来店情報入力装置を用いて入力される請求項 1 記載の商品販売データ処理システム。

【請求項 4】 前記グループ来店顧客の当該各顧客 ID が、前記グループ来店宣言を成した後に当該各顧客が所有する当該各顧客専用カードを同一の ID 読取手段を用いて連続的に読取らせることによりグループ化入力することができる請求項 1 から請求項 3 までのいずれか 1 項に記載された商品販売データ処理システム。

【請求項 5】 前記グループ来店宣言および各顧客 ID が、グループ来店後でグループ来店顧客の誰もが前記ターミナルにおいて前記商品登録を開始していない間に入力されていることを条件とする請求項 1 から請求項 4 までのいずれか 1 項に記載された商品販売データ処理システム。

【請求項 6】 前記グループ来店宣言および各顧客 ID が、グループ来店顧客の全員が前記ターミナルにおいて前記会計処理を終了した後に入力されたことを条件とする請求項 1 から請求項 4 までのいずれか 1 項に記載された商品販売データ処理システム。

【請求項 7】 前記グループ来店特典の付与後に当該各顧客 ID に対応しかつグループ来店特典付与のために必要な商品販売データを自動消去する請求項 6 記載の商品販売データ処理システム。

【請求項 8】 前記グループ来店特典が、当該各グループ来店顧客の 1 取引内合計金額に応じて差別化されている請求項 1 から請求項 7 までのいずれか 1 項に記載された商品販売データ処理システム。

【請求項 9】 前記グループ来店特典が、1 取引内合計金額に対して付与される通常ポイントとは別のグループ来店ポイントとされている請求項 1 から請求項 7 までのいずれか 1 項に記載された商品販売データ処理システム。

【請求項 10】 前記グループ来店特典が、当該各グループ来店顧客の人数に応じて差別化されている請求項 1 から請求項 7 までのいずれか 1 項に記載された商品販売データ処理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、店舗内に配設された商品登録機能を有する複数のターミナルを具備しかつグループ来店した客に単独来店客に対して差別化した特典を付与可能に形成された商品販売データ処理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】例えば、電子キャッシュレジスタ型の商品販売データ処理システムでは、オペレータ（店員）がスキャナを用いて商品に付されたバーコードをスキャンして商品コードを読取入力すると、制御部は、商品ファイルを検索して読取商品コードに対応する商品データを取得する。

【0003】そして、制御部は、取得した商品データを利用した売上データを売上ファイルに商品（売上）登録する。顧客購入商品の全てについて商品登録した後に、1 取引終了宣言としての締め操作が行われると、制御部は合計金額の算出等を含む会計処理を実行する。当該取引データは、上位機にトランザクションとして転送される。

【0004】したがって、煩雑な商品登録および会計処理を迅速かつ正確に行えとともに、当日閉店前に売上ファイルに記憶されている売上データを分析すれば当日の経営資料を取得できる。経営資料としては、売上金額、売上個数、売れ筋商品のベストテンや顧客別販売金額データ等である。なお、上位機内の売上マスタファイルを用いれば、各店舗に関する総合的な経営資料を取得できる。

【0005】ここにおいて、かかる商品販売データ処理システムを有する店舗では、各種の顧客サービス（例えば、店舗会員に対する割引サービス、1 取引内での合計金額に応じたサービス用ポイントの付与、店舗が開設するホームページ上の値引優待券を印刷して持参した客に対する値引サービス等）を提供している。また、当該システムで、それら顧客サービスに関する処理ができるように構築されている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】ところで、各種店舗同士間での競争が激化するに伴い顧客サービスの開発・実施が増大しつつあるが、顧客誘引効果において大差がなく、新規で斬新な顧客サービスの開発並びに当該顧客サービスを処理可能なシステムの開発が強く要請されている。

【0007】本発明の目的は、グループ来店顧客に関して単独来店顧客には付与しない格別のグループ来店特典

を付与可能な商品販売データ処理システムを提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明は、店舗内に配設された商品登録機能を有する複数のターミナルを具備する商品販売データ処理システムにおいて、グループ来店宣言を成した複数人の顧客IDをグループ来店顧客ID管理テーブルに記憶して管理可能に形成し、前記ターミナルにおいて顧客IDを入力した商品登録が成された場合に当該顧客IDがグループ来店顧客ID管理テーブルで記憶管理されているいずれかの顧客IDと等しいと判別できたことを条件に当該取引に関して単独来店顧客には付与しない格別のグループ来店特典を付与できるようにコンピュータ処理する商品販売データ処理システムである。

【0009】かかる発明では、グループ（例えば、5人）で来店した各顧客は、例えば店舗入口に配設されたマルチメディア端末を用いて、グループ来店宣言を成しかつ各顧客IDを入力する。入力順序は適宜に選択すればよい。入力されたグループ来店顧客IDは、コンピュータ処理により、グループ来店顧客ID管理テーブルに記憶されて管理される。

【0010】売場のターミナルにおいて、ある顧客の顧客IDが入力されかつ商品登録が成された場合に、当該顧客IDがグループ来店顧客ID管理テーブルで記憶管理されている顧客IDの中のいずれかの顧客IDと等しいか否かが判別される。そして、記憶管理中の顧客IDと等しいと判別できたことを条件に、当該顧客に対してグループ来店特典を付与する。

【0011】したがって、グループ来店顧客に関して単独来店顧客には付与しない格別のグループ来店特典（例えば、割引販売や特別サービス用ポイント等）を付与することができる。すなわち、新規で斬新な顧客サービスであることからグループ顧客にグループ買い物の楽しみおよび実益（特典）を与えられかつ店舗側にとっては顧客誘引効果を大幅に向上できる。さらに、自動車の相乗りができるから環境的・経済的のも好ましかつ駐車場の混雑も緩和される。

【0012】また、請求項2の発明は、前記グループ来店宣言および各顧客IDが、いずれかのターミナルにおいて入力可能に形成された商品販売データ処理システムである。

【0013】かかる発明では、グループ来店宣言および各顧客IDは、いずれのターミナルにおいても入力することができるから、請求項1の発明の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらに格別な入力装置を設けなくてもよいため設備コストを軽減できかつ具現化および取り扱いが容易である。

【0014】また、請求項3の発明は、前記グループ来店宣言および各顧客IDが、前記各ターミナルに共通の

グループ来店情報入力装置を用いて入力可能に形成された商品販売データ処理システムである。

【0015】かかる発明では、グループ来店宣言および各顧客IDは、各ターミナルに共通のグループ来店情報入力装置を用いて入力することができるので、請求項1の発明の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらに入力を迅速に行えかつ各顧客がそれぞれの売場（ターミナル）に早く出かけられる。

【0016】また、請求項4の発明は、前記グループ来店顧客の当該各顧客IDが、前記グループ来店宣言を成した後に当該各顧客が所有する当該各顧客専用カードを同一のID読取手段を用いて連続的に読取らせることによりグループ化入力可能に形成された商品販売データ処理システムである。

【0017】かかる発明では、グループ来店顧客は、グループ来店宣言を成した後に当該各顧客が所有する各顧客専用カード（各顧客ID）を同一のID読取手段を用いて連続的に読取らせることにより、グループ化入力することができる。

【0018】したがって、請求項1から請求項3までの各発明の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらにグループ来店顧客を構成する複数人の顧客のID入力が簡単でかつグループ化を正確に行える。

【0019】また、請求項5の発明は、前記グループ来店宣言および各顧客IDが、グループ来店後でグループ来店顧客の誰もが前記ターミナルにおいて前記商品登録を開始していない間に入力されていることを条件とする商品販売データ処理システムである。

【0020】かかる発明では、グループ来店宣言および各顧客IDは、グループ来店後でグループ来店顧客の誰もがいずれのターミナルにおいても商品登録を開始していない間に入力される。つまり、商品登録以前に当該顧客IDが入力済でかつグループ化されていることを条件として特典を付与する。

【0021】したがって、請求項1から請求項4までの各発明の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらにターミナルにおいて商品登録した場合に当該商品登録内容（例えば、合計金額）に対して特典（例えば、特別サービス用ポイント等）をリアルタイム的に付与できる。よって、特典付与処理に専用操作が必要なくかつ顧客にとってもその場で実益（特典）を確認できるから安心である。

【0022】さらに、請求項6の発明は、前記グループ来店宣言および各顧客IDが、グループ来店顧客の全員が前記ターミナルにおいて前記会計処理を終了した後に入力されたことを条件とする商品販売データ処理システムである。

【0023】かかる発明では、グループ来店宣言および各顧客IDは、グループ来店顧客の全員がターミナルに

において会計処理を終了した後に入力される。つまり、商品購入後の各顧客IDが入力されかつグループ化されたことを条件として、グループ来店特典を付与する。

【0024】したがって、請求項1から請求項4までの各発明の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらに商品購入者に対して事後的にグループ化を認めることができかつ商品購入実績に応じた特典（例えば、特別サービス用のポイント）を確実に付与できる。一方において、グループ来店した顧客全員が商品購入を強制されないで安心であり、店舗側にとっても商品購入者に的を絞って特典を付与できるので円滑な運用ができる。

【0025】さらに、請求項7の発明は、前記グループ来店特典の付与後に当該各顧客IDに対応しかつグループ来店特典付与のために必要な商品販売データを自動消去する商品販売データ処理システムである。

【0026】かかる発明では、グループ来店特典の付与後に、当該各顧客IDに対応しかつグループ来店特典付与のために必要な商品販売データ（例えば、合計金額）を自動消去するので、請求項6の発明の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらに同一顧客に対するグループ来店特典の重複付与を確実に回避させることができる。

【0027】さらに、請求項8の発明は、前記グループ来店特典が、当該各グループ来店顧客の1取引内合計金額に応じて差別化された商品販売データ処理システムである。

【0028】かかる発明では、当該各グループ来店顧客の1取引内合計金額に応じて差別化されたグループ来店特典（例えば、合計金額が高い程に段階的に増大した特別サービス用ポイントを付与する利益等）が付与されるので、請求項1から請求項7までの各発明の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらに顧客および店舗の双方が公平性を実感できかつ一段の購買意欲を惹起できる。

【0029】さらにまた、請求項9の発明は、前記グループ来店特典が、1取引内合計金額に対して付与される通常ポイントとは別のグループ来店ポイントとされた商品販売データ処理システムである。

【0030】かかる発明では、各顧客は、当該各1取引内の合計金額に対して通常的に付与される通常ポイントとは別に、グループ来店の場合には特別サービス用ポイントつまりグループ来店ポイント（グループ来店特典）を受けられる。

【0031】したがって、請求項1から請求項7までの各発明の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらにグループ来店特典の付与処理が容易でかつ顧客にとっても特典（特別サービス用ポイント）付与を通常のサービスポイントとの比較において明確に確認することができる。

【0032】さらにまた、請求項10の発明は、前記グループ来店特典が、当該各グループ来店顧客の人数に応じて差別化された商品販売データ処理システムである。

【0033】かかる発明では、グループ来店特典が各グループ来店顧客の人数に応じて差別化されるので、請求項1から請求項7までの各発明の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらに人数の増大に段階的乃至連続的に応じて比例的に価値の増す特典を付与することができるので、顧客吸引力を一段と増強できる。

【0034】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態について図面を参照して説明する。

【0035】（第1の実施形態）本商品販売データ処理システムは、図1、図2に示す如く店舗内に配設された商品登録機能を有する複数のターミナル（10）を具備し、かつ図3～図9に示すようにグループ来店宣言を成した複数人の顧客IDをグループ来店顧客ID管理テーブル84KTに記憶して管理可能に形成し、ターミナル（10）において顧客IDを入力した商品登録が成された場合に当該顧客IDがグループ来店顧客ID管理テーブル84KTで記憶管理されているいずれかの顧客IDと等しいと判別できたことを条件に当該取引に関して単独来店顧客には付与しない格別のグループ来店特典を付与できるようにコンピュータ処理可能に形成されている。

【0036】図1、図2において、商品販売データ処理システムは、各売場に配設された電子キャッシュレジスタ10からなる複数のターミナルと、店舗出入口に配設されたマルチメディア端末80とから形成されている。

【0037】各電子キャッシュレジスタ10は、標準入力装置（キーボード43）を含むパソコン20に、外部入出力装置を接続してなる。

【0038】パソコン20は、マザーボードにCPU31、ROM32、RAM33および時計回路等（図示省略）を実装した構成の制御部30に、HDD（ハードディスク装置）41、FDD（フレキシブルディスク装置）42、上記キーボード43、入出力ポート（I/O）46・47およびマルチメディア端末80とデータ通信回線網45を介してデータ通信するための通信用インターフェイス（I/F）44等を接続してなる。

【0039】入出力ポート46にはその他の入力装置を形成するスキャナ（SCN）71およびポイントカードなど用のカードリーダーライター（R/W）73が接続され、入出力ポート47にはプリンタ（PNT）75およびその他の出力装置（OTH…自動開放型のドロワ等）76が接続されている。

【0040】また、制御部30には、表示手段60を構成するオペレータ用表示器（FIU）61および客用表示器（BIU）65が表示用コントローラ50を介して

接続されている。また、各コントローラ（CONT）を介してオペレータ用表示器（FIU）61に対応するタッチパネル62および客用表示器（BIU）65に対応するタッチパネル66が接続されている。

【0041】電子キャッシュレジスタ10の基本的機能は、スキャナ71を用いて顧客購入商品に付設（印刷やラベル貼付等）された商品コードを読取入力（図8のST10でYES）すると、制御部30が図3の商品ファイル41Fを参照（ST11）して当該商品コードに対応する商品データ（商品名、単価等）を取得（ST12）し、売上ファイル41Rに商品（売上）登録する（ST13）する。

【0042】1取引宣言としての締め操作がなされる（ST14のYES）と、制御部30は、合計金額の算出等を含む会計処理（図9のST22）を実行するとともに、当該合計金額に応じた通常のサービス用ポイントの付与処理を実行する（ST23）。

【0043】この通常のポイント付与処理（図9のST23）は、合計金額（例えば、1000円）に単位金額（例えば、100円）当たりの付与ポイント（例えば、1ポイント）を掛け算して10 $=[1000 \times (1/100)]$ ポイントを算出（付与）しかつカードリーダー73に挿入されたカード（ポイントカード）CRDに記憶（付与）可能に形成されている。

【0044】さて、RAM33には図4に示すIDメモリ33IDが設けられ、IDメモリ33IDにはカードリーダー73を用いてカードCRDから読取入力（図8のST15でYES）された顧客ID（例えば、“12345678”）が書き込み記憶（ST16）される。なお、顧客IDは、キーボード43やタッチパネル（62）を用いて入力するように形成することができる。

【0045】HDD41には、上記した商品ファイル41Fおよび売上ファイル41Rの他に、図5に示す特典付与処理用データテーブル41STが設けられている。その他に、各種ファイルや、図8、図9に示す商品販売データ処理に係る各種の制御プログラムが格納されている。各ファイル等は、RAM33に展開されて使用される。

【0046】図5に示す特典付与処理用データテーブル41STには、グループ来店した顧客に特典を付与するための特典付与処理用データが記憶される。この第1の実施形態における特典付与処理用データは、グループ来店特典が当該各グループ来店顧客の1取引内合計金額に応じて差別化されたグループ来店ポイント（特典）の付与処理を行うためのデータである。

【0047】つまり、グループ来店特典であるグループ来店ポイントは、1取引内合計金額に対して付与（図9のST23）される通常ポイントとは別個の特別なサービス用ポイントである。すなわち、例えば、合計金額が

図5に示す2000円未満、10000円未満、50000円未満の場合に、それぞれに付与される5ポイント、25ポイント、50ポイントである。

【0048】なお、グループ来店特典は、1取引内合計金額に応じた差別化とともに（あるいは単独的に）、当該各グループ来店顧客の人数に応じて差別化するように構築することができる。例えば、グループ来店顧客人数が多くなる程により多くの特別サービス用ポイントを付与する等である。

10 【0049】次に、マルチメディア端末80は、図6に示す如く、CPU81、ROM82、RAM83、HDD84、キーボード（KB）90、表示器（IND）91、カードリーダーライター（R/W）92、スピーカー（SPK）93およびデータ通信回線網45用の通信用インターフェイス（I/F）を含み、各種情報提供機能、グループ来店顧客ID管理機能等を有する。

20 【0050】このマルチメディア端末80は、各ターミナル（10）に共通でかつグループ来店宣言および顧客IDを入力（図10のST31でYES、ST32）するためのグループ来店情報入力装置を構成する。

【0051】すなわち、グループ来店宣言は図6に示す宣言ボタン90Bを押下（ON）することにより入力（図10のST30でYES）でき、顧客IDはカードリーダーライター92に挿入されたカードCRDから読取入力（ST31のYES、ST32）される。

30 【0052】グループ来店顧客ID記憶制御手段（CPU81、ROM82）は、入力されたグループ来店した各顧客のID（例えば、“12345678”、“23456789”等）を図7に示すグループ来店顧客ID管理テーブル84KTに記憶（ST33）する。宣言ボタン90Bを押上（OFF）するまでに（グループ入力終了宣言を行うまでに）、入力されたものがグループ化される。

【0053】すなわち、グループ来店宣言を成した後（ST30のYES）に、当該各顧客が所有する当該各顧客専用カードCRDを同一のID読取手段（カードリーダーライター92）を用いて連続的に読取らせる（ST31のYES、ST32、ST34のNO）ことにより、グループ来店顧客の当該各顧客IDをグループ化して入力可能に形成されている。

【0054】なお、かかるグループ来店宣言および各顧客IDは、グループ来店後でグループ来店顧客の誰もがターミナル（10）において商品登録を開始していない間つまり商品登録開始以前に入力されていることを条件として、グループ来店特典を付与するものと形成されている。

50 【0055】この実施形態では、図10でST35、ST36、ST37のYES、ST38で確認するものと形成してあるが、グループ来店宣言および各顧客IDの入力の際（ST30、ST31）に予め各ターミナル

(10)側に問合せることにより確認するように形成してもよい。

【0056】かかる第1の実施形態では、グループ来店した例えば5人の顧客(例えば、“A”、“B”、“C”、“D”、“E”)は、グループ来店情報入力装置(80)において、宣言ボタン90Bを用いてグループ来店の旨を宣言入力し、各顧客カードCRDを順番にカードリーダー92に挿入して各顧客IDを入力(図10のST30でYES、ST31のYES、ST32、ST34のYES)する。

【0057】グループ来店顧客ID記憶制御手段(81、82)によって、グループ化された来店顧客IDは、図7のグループ来店顧客ID管理テーブル84KTに記憶(ST33)されて管理される。

【0058】以上の手続操作は、表示器91に表示されかつスピーカ93から音声出力された取扱いガイダンスを参照して行えるので、顧客にとって取扱が簡単である。

【0059】ここで、グループ化された顧客の一人(例えば、“A”)がある売場のあるターミナル(10)において、精算(会計)する場合を考える。

【0060】顧客AからカードCRDを受け取ったキャッシュは、カードリーダー73に挿入して当該顧客IDを読取入力する。この顧客ID(例えば、“12345678”)は、IDメモリ33IDに記憶される(図8のST15でYES、ST16)。

【0061】顧客Aの全購入商品についての商品登録(図8のST13)が終了して締め操作が行われる(ST14のYES)と、ID取得手段(30)がIDメモリ33IDから記憶管理された顧客ID(“12345678”)を取得(図9のST17)する。

【0062】すると、問合せ手段(30)が、取得された顧客ID(“12345678”)を付した伝文で図6のマルチメディア端末80に問合せを行う(図9のST18)。

【0063】マルチメディア端末80側では、この問合せを受信(図10のST35でYES)すると、判別手段(CPU81、ROM82)が、図7に示すグループ来店顧客ID管理テーブル84KTを参照(ST36)して当該顧客AのID(“12345678”)と同じID(“12345678”)が記憶管理されているか否かを判別(ST37)する。

【0064】応答手段(CPU81、ROM82)は、判別手段(81、82)によって同一ID(“12345678”)が記憶管理されていると判別(ST37のYES)された場合に、当該顧客A(“12345678”)がグループ来店顧客である旨を問合せ元であるターミナル(10)に回答(ST38)する。

【0065】これとは反対に、同一ID(“12345678”)が記憶管理されていないと判別(ST37の

NO)された場合には、応答手段(81、82)がグループ来店顧客ではない旨を当該ターミナル(10)に回答(ST39)する。

【0066】問合せ元であるターミナル(10)側では、マルチメディア端末80側からグループ来店顧客ではないとの応答を受信(図9のST19のNO)した場合には、会計処理(ST22)、通常のポイント付与処理(ST23)を実行する。

【0067】ここに、グループ来店顧客である旨の応答を受信(図9のST19のYES)した場合には、グループ来店特典付与処理実行制御手段(30)が、図5に示す特典付与処理用データテーブル41STに記憶されている特典付与処理用データを利用して特典付与処理を実行(ST20)する。

【0068】すなわち、当該顧客Aの1取引内合計金額(例えば、“10000円”)に応じて差別化されたグループ来店ポイント(50ポイント…特典)を付与する。つまり、1取引内合計金額(“10000円”)に対して付与(図9のST23)される通常ポイント(100ポイント)とは別個で格別のグループ来店特典(グループ来店ポイント…50ポイント)を付与(ST20)する。

【0069】この実施形態では、通常(100ポイント)と特別(50ポイント)の双方ポイントが重複して付与(ST20、ST23)される。この場合の重複付与ポイントは、150(=50+100)ポイントになる。

【0070】特典付与処理実行(ST20)後に、特典付与処理済通知手段(30)が特典付与処理済の旨をマルチメディア端末80に通知(ST21)する。記憶消去手段(30)は、IDメモリ33IDに記憶されている当該顧客AのID(“12345678”)を自動的に消去(ST24)する。

【0071】特典付与処理済通知を受信(図10のST40でYES)したマルチメディア端末80側の顧客ID削除手段(CPU81、ROM82)は、図7に示すグループ来店顧客ID管理テーブル84KTに記憶されている当該顧客ID(“12345678”)を自動的に削除(ST41)する。

【0072】しかし、この第1の実施形態によれば、グループ(例えば、4人)で来店した各顧客(例えば、“A”、“B”、“C”、“D”)は、店舗入口に配設されたマルチメディア端末80つまりグループ来店情報入力装置(80…90B、92)を用いてかつ取扱いガイダンスを参照しつつグループ来店宣言を成しかつ各顧客IDを入力する(図10のST30でYES、ST31のYES、ST32、ST34のYES)。

【0073】入力されたグループ来店顧客の各顧客ID(“12345678”、“23456789”、“34567890”、“45678901”)は、グルー

ブ来店顧客ID記憶制御手段(81, 82)によるコンピュータ処理によって、図7に示すグループ来店顧客ID管理テーブル84KTに記憶(ST33)されて管理される。

【0074】売場のターミナル(10)において、当該カードリーダー73を用いて読取入力(図8のST15でYES)された顧客Aの顧客ID(例えば、"12345678")は、IDメモリ33IDに記憶される(ST16)。

【0075】その後、商品登録が成された場合(図8のST10でYES, ST11, ST13, ST14のYES)に、当該ターミナル(10)は、マルチメディア端末80に顧客ID("12345678")を付しての問合せを行う(図9のST17, ST18)。

【0076】この問合せを受信(図10のST35でYES)したマルチメディア端末80側の判別手段(81, 82)は、当該顧客ID("12345678")が図7に示すグループ来店顧客ID管理テーブル84KTで記憶管理されているいずれかの顧客ID("12345678"等)と等しいか否かを判別(ST36, ST37)する。

【0077】そして、記憶管理中の顧客ID("12345678")と等しいと判別(ST37のYES)できた場合に、当該顧客A("12345678")がグループ来店顧客である旨を問合せ元のターミナル(10)に回答(ST38)する。

【0078】問合せ元であるターミナル(10)では、グループ来店顧客である旨の回答を受信(図9のST19でYES)したことを条件に、グループ来店特典を付与(ST20)する。

【0079】したがって、グループ来店顧客に関して単独来店顧客(ST19のNO)には付与しない格別のグループ来店特典を当該顧客A(他の同一グループ内グループ来店顧客B, C, Dの場合も同様である。)に付与することができる。すなわち、新規で斬新な顧客サービスであることからグループ顧客にグループ買い物の楽しみおよび実益(特典)を与えられかつ店舗側にとっては顧客誘引効果を大幅に向上できる。さらに、自動車の相乗りができるから環境的・経済的のも好ましくかつ駐車場の混雑も緩和される。

【0080】また、グループ来店宣言および各顧客IDは、各ターミナル(10)に共通のグループ来店情報入力装置(80)を用いて入力(図10のST30でYES, ST31のYES, ST32, ST34のYES)することができるので、グループ来店顧客である旨のグループ化入力を迅速に行えかつ各顧客が自己購入希望商品の陳列されたそれぞれの売場(ターミナル)に早く出かけられる。

【0081】また、グループ来店顧客は、グループ来店宣言を成した後(図10のST30でYES)に、当該

各顧客が所有する当該各顧客専用カード(各顧客ID)CRDを同一のID読取手段(92)を用いて連続的に読取らせることによりグループ化入力(ST31のYES, ST34のYES)することができるから、グループ来店顧客を構成する複数人の顧客のID入力がかつグループ化を正確に行える。

【0082】また、グループ来店宣言および各顧客IDは、グループ来店後でグループ来店顧客の誰もがいずれのターミナル(10)においても商品登録を開始していない間に入力される。つまり、商品登録以前に顧客IDが入力済でかつグループ化されていることを条件(図10のST36, ST37のYES)として特典を付与処理可能に形成されているので、ターミナル(10)において商品登録した場合に当該商品登録内容(合計金額)に対して特典(特別サービス用ポイント)をリアルタイム的に付与できる。したがって、特典付与に格別の操作が必要なくかつ顧客にとっても実益(特典)をその場で確認でき安心である。

【0083】さらに、各グループ来店顧客の1取引内合計金額に応じて図5に示す差別化されたグループ来店特典(特別サービス用ポイント)が付与されるので、顧客および店舗の双方が公平性を実感できかつ一段の購買意欲を惹起できる。

【0084】しかも、各顧客は、当該各1取引内の合計金額(例えば、"5000円")に対して通常的に付与される通常ポイント("50ポイント")とは別に、グループ来店の場合にはグループ来店ポイント(グループ来店特典..."25ポイント")を受けられるので、グループ来店特典の付与処理(図9のST20, ST23)が容易でかつ顧客にとっても特典付与を通常のサービスポイントとの比較において明確に確認することができる。

【0085】なお、グループ来店特典を各グループ来店顧客の人数に応じて差別化するように構築した場合には、人数の増大に段階的乃至連続的に応じて比例的に価値の増す特典を付与できる。すなわち、顧客吸引力を一段と増強できる。

【0086】(第2の実形態)この第2の実形態は、第1の実形態ではグループ来店宣言および各顧客IDの入力がマルチメディア端末80において実行可能に形成されていたのに対して、いずれかのターミナル(10)においてグループ来店宣言および各顧客IDを入力可能に形成されている。

【0087】すなわち、グループ来店顧客(例えば、"A", "B", "C", "D")は、ある1台のターミナル(10)において、図2に示すキーボード43上の宣言キー(図示省略)およびカードリーダー73を用いてグループ来店宣言および各顧客IDの入力を行う。この場合は、キャッシャーを介して入力作業される。

【0088】グループ化入力された来店顧客ID("12345678", "23456789", "34567890", "45678901")は、グループ来店顧客ID記憶制御手段(30)によって当該ターミナル(10)のHDD41内のグループ来店顧客ID管理テーブル(図示省略)に記憶されて管理される。

【0089】したがって、この第2の実施形態によれば、第1の実施形態の場合に比較して専用入力装置や前記したマルチメディア端末80等を設ける必要がないので、設備的コストを軽減できかつ具現化および取扱いが容易である。

【0090】(第3の実形態)この第3の実施形態は、図11～図16に示す如く、第1(第2)の実施形態の場合[グループ来店特典付与処理が各ターミナル(10)で実行可能に形成されている。]に対して、このグループ来店特典付与処理もがグループ来店宣言および各顧客IDの入力の場合と同様にマルチメディア端末80において実行可能に形成されている。

【0091】したがって、第1(第2)の実施形態の場合において各ターミナル(10)に設けられていた図5に示す特典付与処理用データテーブル41STは、この第3の実施形態に係る各ターミナル(10)には設けられずかつこれに代わって各ターミナル(10)に共通なマルチメディア端末80内に図13に示す特典付与処理用データテーブル84STが共通使用可能に設けられている。

【0092】なお、基本的構成・機能は、第1(第2)の実施形態の場合(図1～図4、図6～図8のST10～ST16、図9のST22～ST24、図10のST30～ST34)と同様なので、共通する部分[ステップ(ST)も含む。]には同一の符号を付してそれらの説明については簡略化または省略する。

【0093】さて、各ターミナル(10)では、会計処理(図15のST22)および通常のポイント付与処理(ST23)が終了しかつIDメモリ33IDに商品購入者である顧客の顧客IDが記憶されていると判別(図15のST23AでYES)された場合には、特典付与処理対象データ記憶制御手段(30)が、図11に示す特典付与処理対象データテーブル41TTにグループ来店についての特典付与処理対象データ(例えば、顧客ID"12345678"および合計金額"10000円")を保存(記憶)する(ST23B)。

【0094】そして、ターミナル(10)は、マルチメディア端末80から問合せを受信(図14のST15AのYES)すると特典付与処理対象データテーブル41TTに記憶されている特典付与処理対象データを問合せ(80)へ送信(ST16A)し、特典付与処理済通知を受信(ST15BのYES)すると特典付与処理対象データテーブル41TTに記憶されている当該特典付与処理対象データを消去(ST16B)する。

【0095】マルチメディア端末80では、グループ来店特典付与処理の実行要求のためにある顧客ID(例えば、"12345678")が入力(図16のST35AでYES)された場合には、各ターミナル(10)に当該顧客ID("12345678")を付しての問合せを行う(ST36A)。

【0096】そして、ターミナル(10)から特典付与処理対象データ(例えば、顧客ID"12345678"および合計金額"10000円")を受信(ST37AのYES)すると、図12に示す特典付与処理実行データテーブル84JTに記憶(ST38A)する。

【0097】特典付与処理実行データは、ターミナル(10)側から受信した特典付与処理対象データ(顧客ID"12345678"および合計金額"10000円")に図13に示す特典付与処理用データテーブル84STから読取った当該合計金額(10000円)に対応する特典(50ポイント)を加えたものである。

【0098】かくして、特典付与処理実行要求があった場合(ST40AのYES)、例えば顧客AのカードCRDから顧客ID("12345678")が読取入力(ST40BのYES)されると、制御部(CPU81, ROM82)は図12に示す特典付与処理実行データテーブル84JTに当該顧客ID("12345678")の記憶があることを確認(ST41AのYES)しかつ当該特典付与処理実行データを取得(ST41B)して、特典付与処理を実行(ST41C)する。その後、図7に示すグループ来店顧客ID管理テーブル84KTから当該顧客ID("12345678")を削除(ST41D)する。

【0099】終了(ST41EのYES)すると、当該ターミナル(10)に特典付与処理済通知を送信(ST41F)する。また、特典付与処理実行データテーブル84JTから当該顧客ID("12345678")を削除(ST41G)する。

【0100】すなわち、マルチメディア端末80は、グループ来店宣言および各顧客IDがグループ来店顧客の全員が各ターミナル(10)において会計処理を終了した後に入力されたことを条件として、グループ来店特典付与処理する。つまり、商品購入後の各顧客IDが入力されかつグループ化されたことを条件(図16のST36A, ST37AのYES)として特典を付与(ST41C)する。

【0101】したがって、第1の実施形態の場合と同様な作用効果を奏することができることに加え、さらに商品購入者に対して事後的にグループ化を認めることができかつ商品購入実績に応じた特典(例えば、特別サービスポイント)を確実に付与できる。一方において、グループ来店した顧客全員が商品購入を強制されないので安心であり、店舗側にとっても商品購入者に特典を付与できるので円滑な運用ができる。

【0102】また、各ターミナル(10)は、グループ来店特典の付与後(図16のST41C)に、当該各顧客IDに対応しかつグループ来店特典付与のために必要な商品販売データ(合計金額)を自動消去(図16のST41F、図14のST16B、図16のST41G)可能に形成してあるので、同一顧客に対するグループ来店特典の重複付与を確実に回避できる。

【0103】

【発明の効果】請求項1の発明によれば、ターミナルにおいて顧客IDを入力した商品登録が成された場合に当該顧客IDがグループ来店顧客ID管理テーブルで記憶管理されている顧客IDと等しいと判別できたことを条件に当該取引に関してグループ来店特典を付与できるようにコンピュータ処理可能に形成された商品販売データ処理システムであるから、グループ来店顧客に関して単独来店顧客には付与しない格別のグループ来店特典(例えば、割引販売や特別サービス用ポイント等)を付与することができる。すなわち、新規で斬新な顧客サービスであることからグループ顧客にグループ買い物の楽しみおよび実益(特典)を与えられかつ店舗側にとっては顧客誘引効果を大幅に向上できる。さらに、自動車の相乗りができるから環境的・経済的のも好ましくかつ駐車場の混雑も緩和される。

【0104】また、請求項2の発明によれば、グループ来店宣言および各顧客IDがいずれかのターミナルにおいて入力可能に形成されているので、請求項1の発明の場合と同様な効果を奏することができることに加え、さらに格別な入力装置を設けなくてもよいから設備的成本を軽減できかつ具現化および取り扱いが容易である。

【0105】また、請求項3の発明によれば、グループ来店宣言および各顧客IDが各ターミナルに共通のグループ来店情報入力装置を用いて入力可能に形成されているので、請求項1の発明の場合と同様な効果を奏することができることに加え、さらに入力を迅速に行えかつ各顧客がそれぞれの売場(ターミナル)に早く出かけられる。

【0106】また、請求項4の発明によれば、グループ来店顧客の当該各顧客IDがグループ来店宣言を成した後に当該各顧客が所有する当該各顧客専用カードを同一のID読取手段を用いて連続的に読取らせることによりグループ化入力可能に形成されているので、請求項1から請求項3までの各発明の場合と同様な効果を奏することができることに加え、さらにグループ来店顧客を構成する複数人の顧客のID入力が簡単でかつグループ化を正確に行える。

【0107】また、請求項5の発明によれば、グループ来店宣言および各顧客IDがグループ来店後でグループ来店顧客の誰もがターミナルにおいて商品登録を開始していない間に入力されていることを条件とするものと形成されているので、請求項1から請求項4までの各発明

の場合と同様な効果を奏することができることに加え、さらにターミナルにおいて商品登録した場合に当該商品登録内容(例えば、合計金額)に対して特典(例えば、特別サービス用ポイント等)をリアルタイム的に付与できる。よって、特典付与処理に専用操作が必要なくかつ顧客にとってもその場で実益(特典)を確認できるから安心である。

【0108】さらに、請求項6の発明によれば、グループ来店宣言および各顧客IDがグループ来店顧客の全員がターミナルにおいて会計処理を終了した後に入力されたことを条件とするものと形成されているので、請求項1から請求項4までの各発明の場合と同様な効果を奏することができることに加え、さらに商品購入者に対して事後的にグループ化を認めることができかつ商品購入実績に応じた特典(例えば、特別サービス用のポイント)を確実に付与できる。一方において、グループ来店した顧客全員が商品購入を強制されないので安心であり、店舗側にとっても商品購入者に的を絞って特典を付与できるので円滑な運用ができる。

【0109】さらに、請求項7の発明によれば、グループ来店特典の付与後に当該各顧客IDに対応しかつグループ来店特典付与のために必要な商品販売データを自動消去可能に形成されているので、請求項6の発明の場合と同様な効果を奏することができることに加え、さらに同一顧客に対するグループ来店特典の重複付与を確実に回避させることができる。

【0110】さらに、請求項8の発明によれば、グループ来店特典が当該各グループ来店顧客の1取引内合計金額に応じて差別化されるものと形成されているので、請求項1から請求項7までの各発明の場合と同様な効果を奏することができることに加え、さらに顧客および店舗の双方が公平性を実感できかつ一段の購買意欲を惹起できる。

【0111】さらにまた、請求項9の発明によれば、グループ来店特典が1取引内合計金額に対して付与される通常ポイントとは別のグループ来店ポイントとされるものと形成されているので、請求項1から請求項7までの各発明の場合と同様な効果を奏することができることに加え、さらにグループ来店特典の付与処理が容易でかつ顧客にとっても特典(特別サービス用ポイント)付与を通常のサービスポイントとの比較において明確に確認することができる。

【0112】さらにまた、請求項10の発明によれば、グループ来店特典が当該各グループ来店顧客の人数に応じて差別化されるものと形成されているので、請求項1から請求項7までの各発明の場合と同様な効果を奏することができることに加え、さらに人数の増大に段階的乃至連続的に応じて比例的に価値の増す特典を付与することができるので、顧客吸引力を一段と増強できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明に係る第 1 の実施形態の全体構成を説明するためのブロック図である。

【図 2】同じく、ターミナルの構成詳細を説明するためのブロック図である。

【図 3】同じく、商品ファイルを説明するための図である。

【図 4】同じく、IDメモリを説明するための図である。

【図 5】同じく、グループ来店特典付与処理用データテーブルを説明するための図である。

【図 6】同じく、マルチメディア端末を説明するためのブロック図である。

【図 7】同じく、グループ来店顧客 ID 管理テーブルを説明するための図である。

【図 8】同じく、ターミナル側の動作を説明するためのフロチャート (1) である。

【図 9】同じく、ターミナル側の動作を説明するためのフロチャート (2) である。

【図 10】同じく、マルチメディア端末側の動作を説明するためのフロチャートである。

【図 11】本発明の第 3 の実施形態に係るターミナル側の特典付与処理対象データテーブルを説明するための図である。

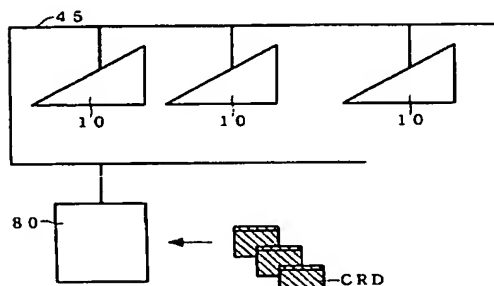
【図 12】同じく、マルチメディア端末側の特典付与処理実行データテーブルを説明するための図である。

【図 13】同じく、マルチメディア端末側の特典付与処理用データテーブルを説明するための図である。

【図 14】同じく、ターミナル側の動作を説明するためのフロチャート (1) である。

【図 15】同じく、ターミナル側の動作を説明するためのフロチャート (2) である。

【図 1】



- 10 電子キャッシュレジスタ (ターミナル)
 33ID IDメモリ
 80 マルチメディア端末 (グループ来店情報入力装置)
 84KT グループ来店顧客 ID 管理テーブル
 90B 宣言ボタン (グループ来店情報入力装置)
 92 カードリーダーライター (グループ来店情報入力装置)

【図 3】

商品コード	商品名	単 価	その他

【図 4】

顧客 ID
1 2 3 4 5 6 7 8

【図 5】

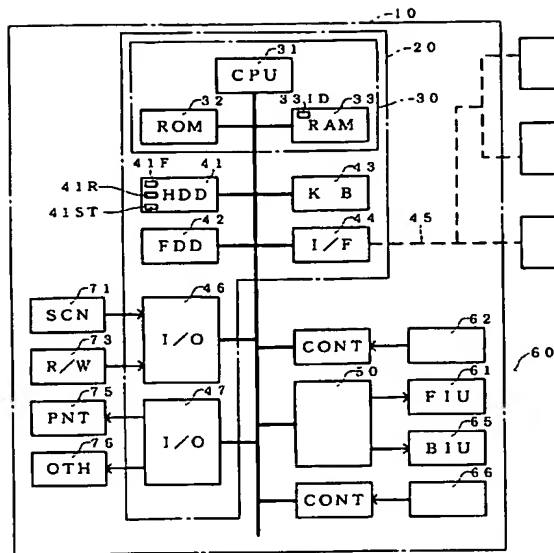
合計金額	特典付与ポイント
2000円未満	5ポイント
10000円未満	25ポイント
50000円未満	50ポイント

【図 16】同じく、マルチメディア端末側の動作を説明するためのフロチャートである。

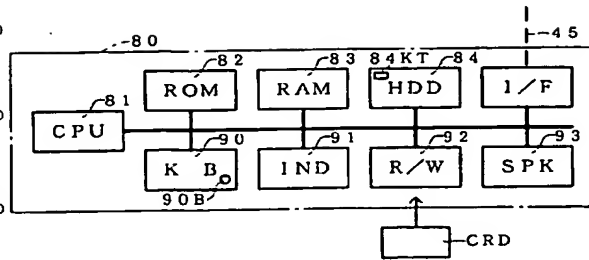
【符号の説明】

- 10 電子キャッシュレジスタ (ターミナル)
 20 パーソナルコンピュータ (パソコン)
 30 制御部
 33ID IDメモリ
 41 HDD
 41F 商品ファイル
 41R 売上ファイル
 41ST 特典付与処理用データテーブル
 41TT 特典付与処理対象データテーブル
 43 キーボード
 50 表示用コントローラ
 60 表示手段
 61 オペレータ用表示器
 65 客用表示器
 80 マルチメディア端末 (グループ来店情報入力装置)
 81 CPU
 82 ROM
 84 HDD
 84KT グループ来店顧客 ID 管理テーブル
 84JT 特典付与処理実行データテーブル
 84ST 特典付与処理用データテーブル
 90 キーボード
 90B 宣言ボタン (グループ来店情報入力装置)
 91 表示器
 92 カードリーダーライター (グループ来店情報入力装置)
 93 スピーカ

【図2】



【図6】



【図11】

41TT

特典付与処理対象データ	
顧客ID	1 2 3 4 5 6 7 8
合計金額	1 0 0 0 0 円

【図12】

84JT

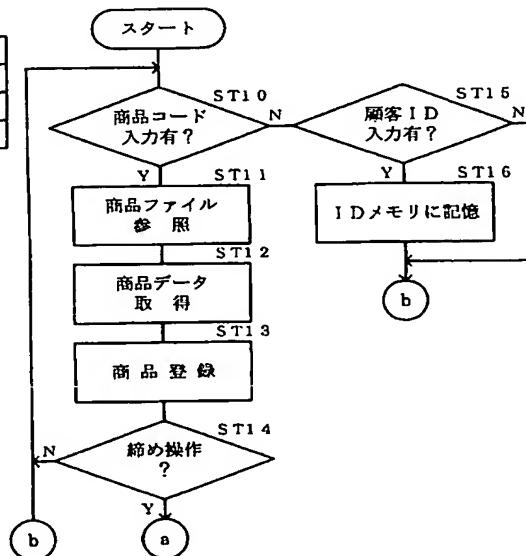
特典付与処理実行データ	
顧客ID	1 2 3 4 5 6 7 8
合計金額	1 0 0 0 0 円
ポイント	5 0 点

【図7】

84KT

グループ来店顧客ID	管理テーブル
1 2 3 4 5 6 7 8	2 3 4 5 6 7 8 9
3 4 5 6 7 8 9 0	4 5 6 7 8 9 0 1

【図8】

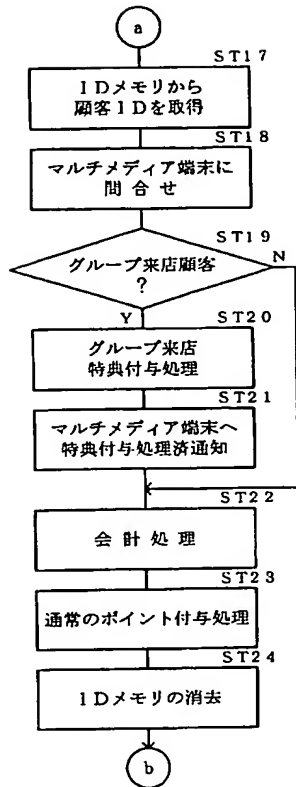


【図13】

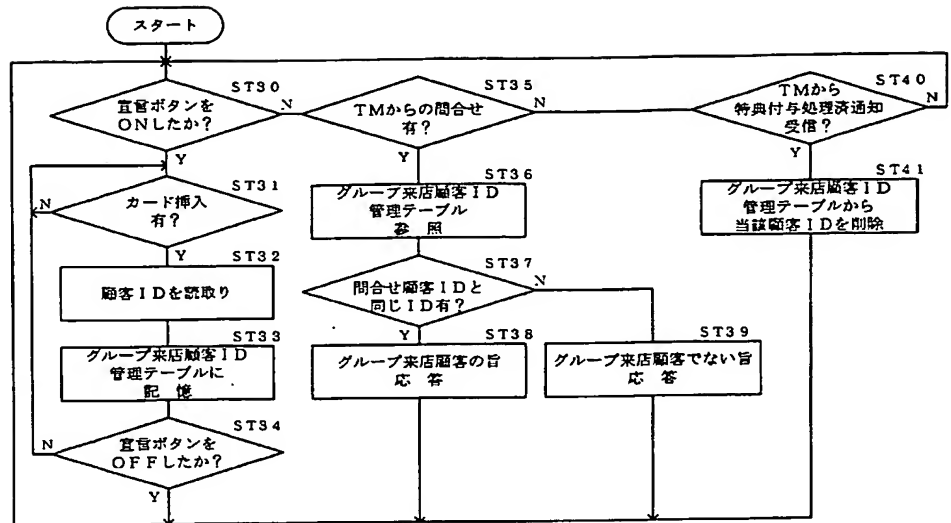
84ST

合計金額	特典付与ポイント
2000円未満	5ポイント
10000円未満	25ポイント
50000円未満	50ポイント

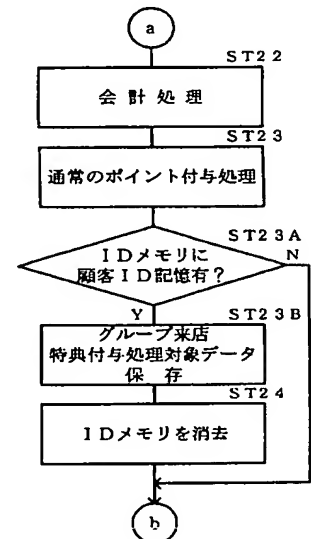
【図9】



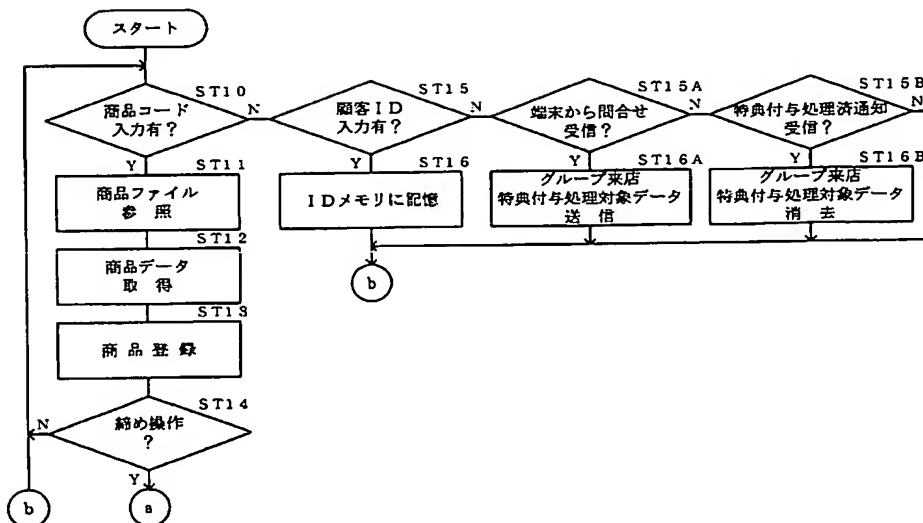
【図10】



【図15】



【図14】



【図 16】

